

4 中丹地域振興計画

(1) 今後の課題

今後の課題 1

育・職・住の充実した持続可能な地域づくり

- 中丹地域の人口は2015年国勢調査でも引き続き減少しており、合計特殊出生率は府内では比較的高いものの、出生数も2013年の1,762人が2016年には1,565人となるなど、少子化傾向となっている。
- さらに、特に大学進学時を含む15歳から19歳の人口の転出が大きく、地域を担う若者世代が不足する傾向にある。
- 有効求人倍率が1倍を超え、特に福祉、建設、保安、販売などの職種で人手不足が深刻となる中、中小企業の事業者数は、社会経済情勢の変化などにより減少傾向にある。
- 農林水産業も万願寺甘とうや丹後とり貝などのブランド製品の生産拡大が図られる一方で、担い手や後継者が不足している。

【課題】

☆多様な価値観やライフスタイルが実現できる地域づくりの推進

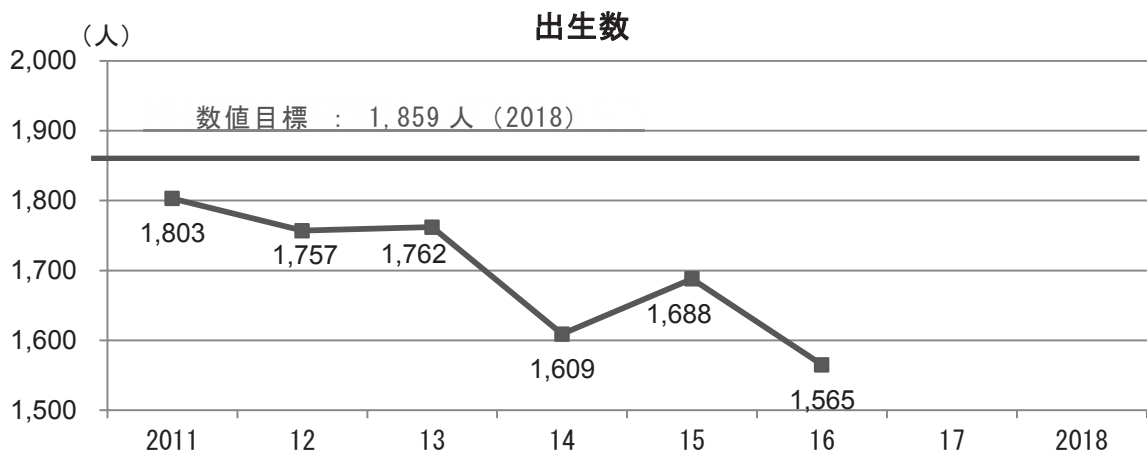
充実した都市機能や企業集積と良好な自然環境が共存する中丹地域の特性を活かし、北部連携都市圏市町が実施する事業と連携し、仕事、住居、子育て環境、医療など生活に必要な情報や世代ごとに異なる移住・定住希望者のニーズに対応できるような情報の整理・発信に取り組み、移住・定住を促進する必要がある。

☆少子高齢化対策や若者の地元定着の促進

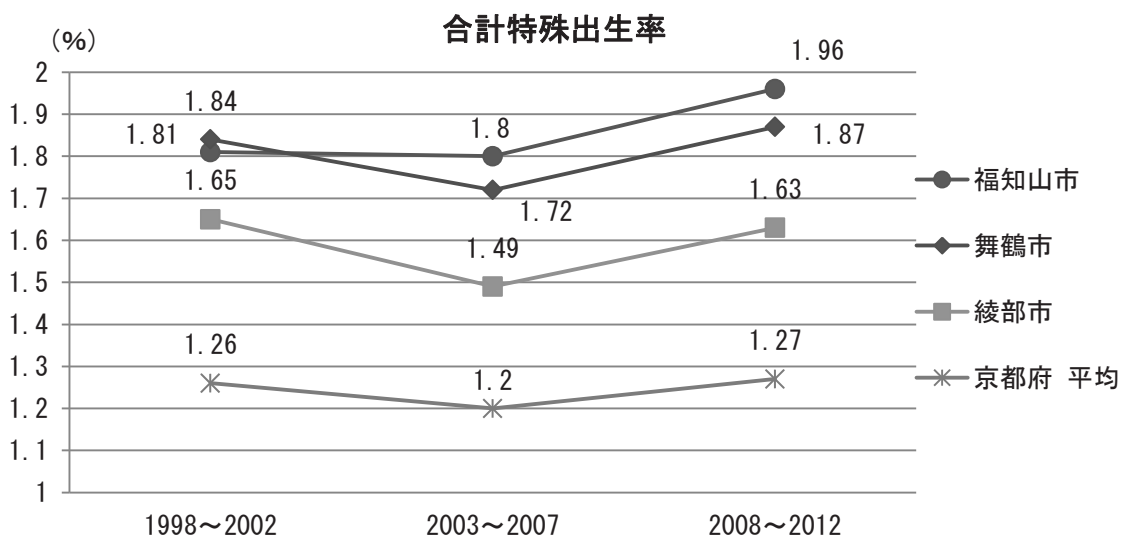
安心して地域で暮らせる環境づくりを推進するため、子育て世代や高齢者に対する包括的な支援体制づくりとともに、地域を担う若者を育成するため、小中学生・高校生に対するキャリア教育の充実・ふるさとへの理解を深める機会の充実や保護者の地元企業への理解を促進する必要がある。

☆京都舞鶴港の活用など産業振興を通じた雇用促進、福知山公立大学などの教育機関や地域と連携した未来を担う人づくり

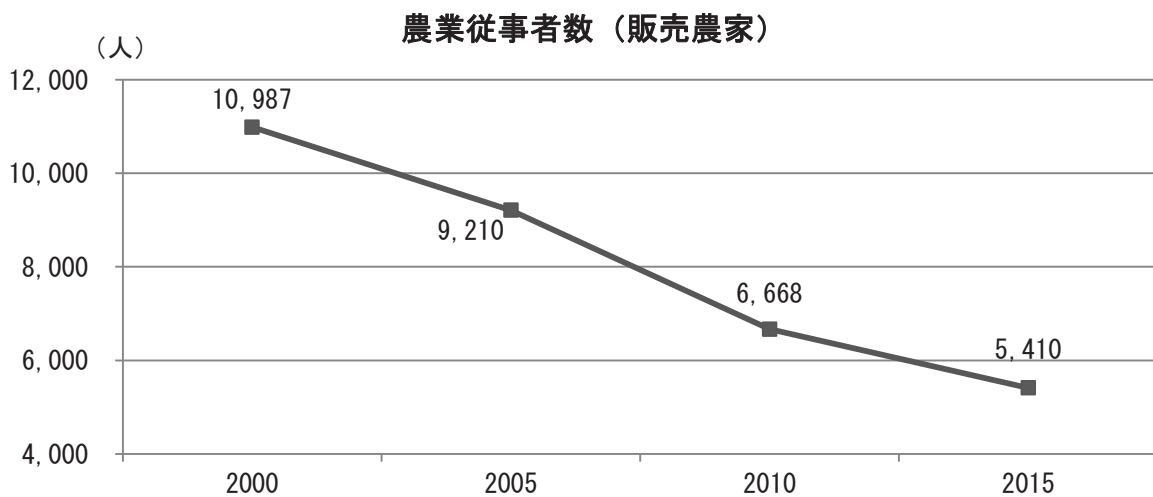
地域の発展の基盤となる産業振興を図るため、京都舞鶴港や高速道路網等のインフラを活用し、新たな地域産業の創造や再生可能エネルギーの利活用、「北部産業創造センター」を核としたものづくり産業の活性化を図る必要がある。また、大学生等の若者の起業・就業支援や地域の産業を支える人材の育成を進めるとともに、農業におけるブランド製品の生産拡大や野生鳥獣被害の軽減を通じて多様な担い手の育成・確保等を推進する必要がある。



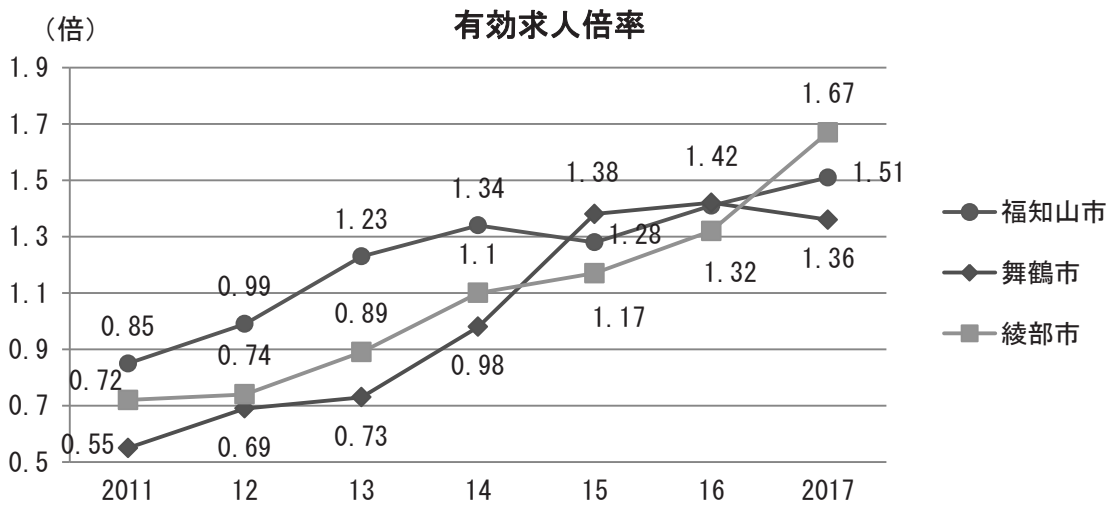
資料 : 人口動態統計 (厚生労働省) ◆□統計データ・施策指標



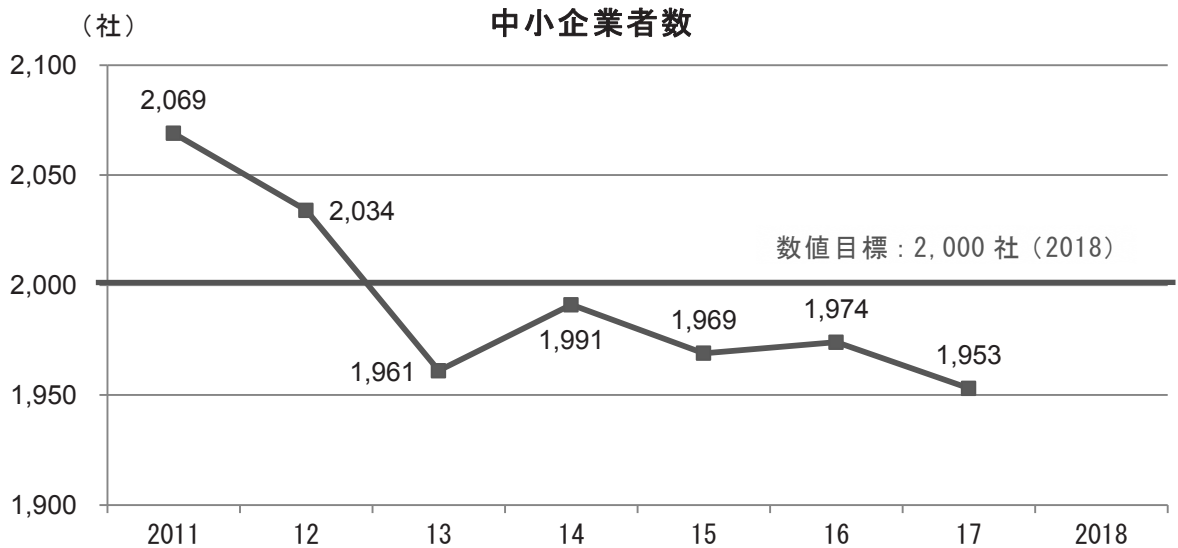
資料 : 人口動態統計 (厚生労働省) ◆統計データ



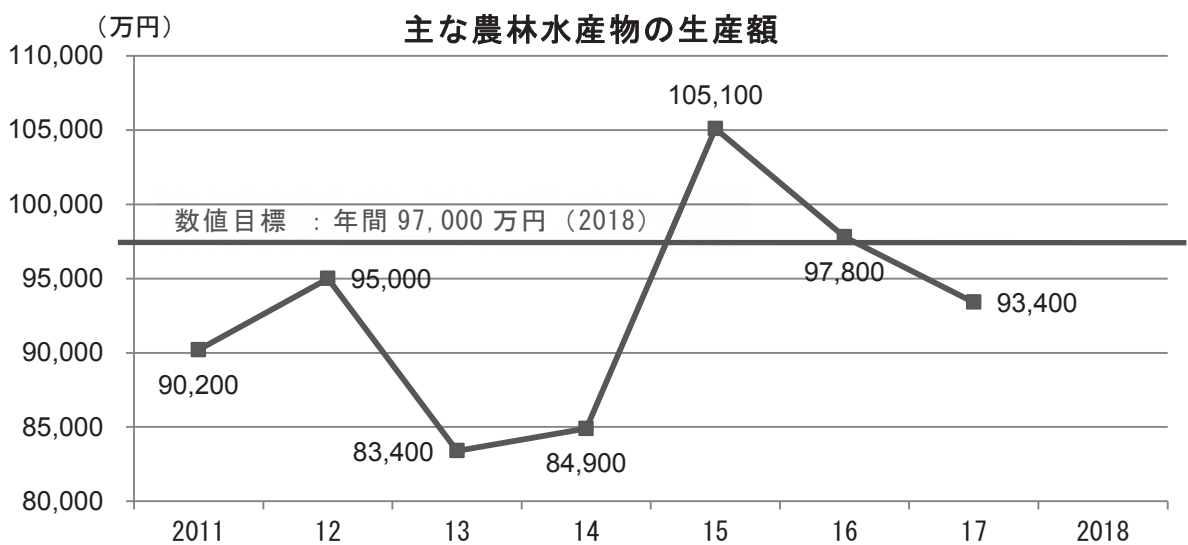
資料: 農林業センサス ◆統計データ



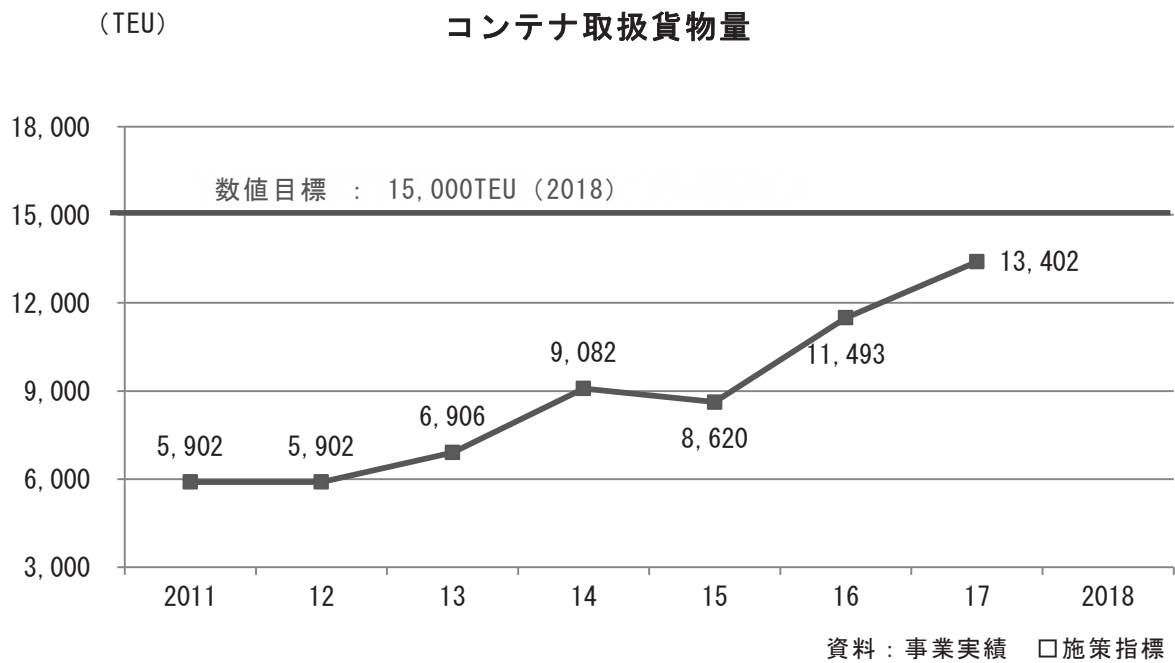
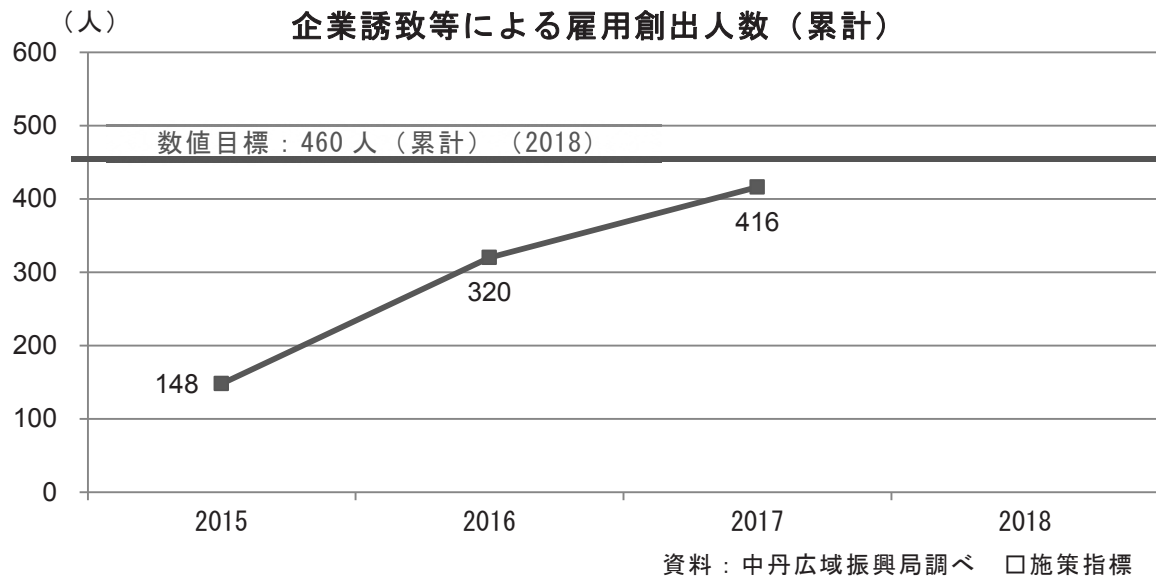
資料：ハローワーク月例調査をもとにした年間平均値 ◆統計データ



資料：商工会議所等調べ □施策指標



資料：中丹広域振興局調べ □施策指標



今後の課題 2

「もうひとつの京都」の推進による魅力あふれる地域づくり

- 中丹地域では、京都縦貫自動車道の全線開通や京都舞鶴港のふ頭整備など、交通・物流基盤の整備が進み、近年は外航クルーズ船の寄港も増加している。また、森林面積が77%を占め、多くの自然公園を有し、豊富な森林資源に恵まれている。
- 北部7市町を全国有数の観光圏とするための「海の京都」や、北中部6市町を森・川・里の環境や文化を未来に受け継ぎ、活かしていく地域とするための「森の京都」の推進により、新たな観光資源の開発や地域資源を活用した新しい観光・ライフスタイルの推進、情報発信の強化などの取組を行っている。
- 「海・森の京都」をはじめとする観光・地域振興や交通基盤の整備により、2017年の観光入込客数が416万人に達するなど着実に増加してきている。

【課題】

☆「海の京都」の推進による広域的な観光地域づくりの推進と北部連携都市圏の形成

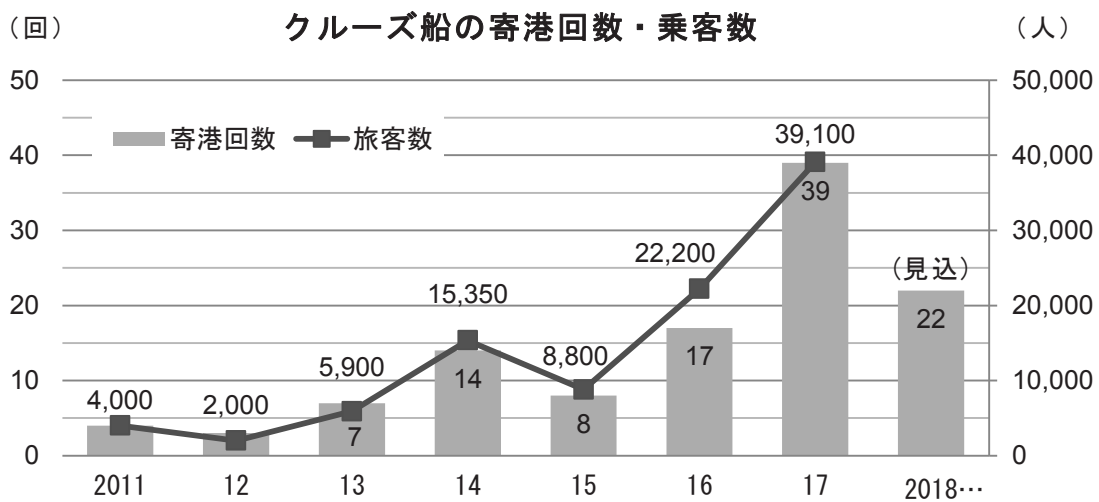
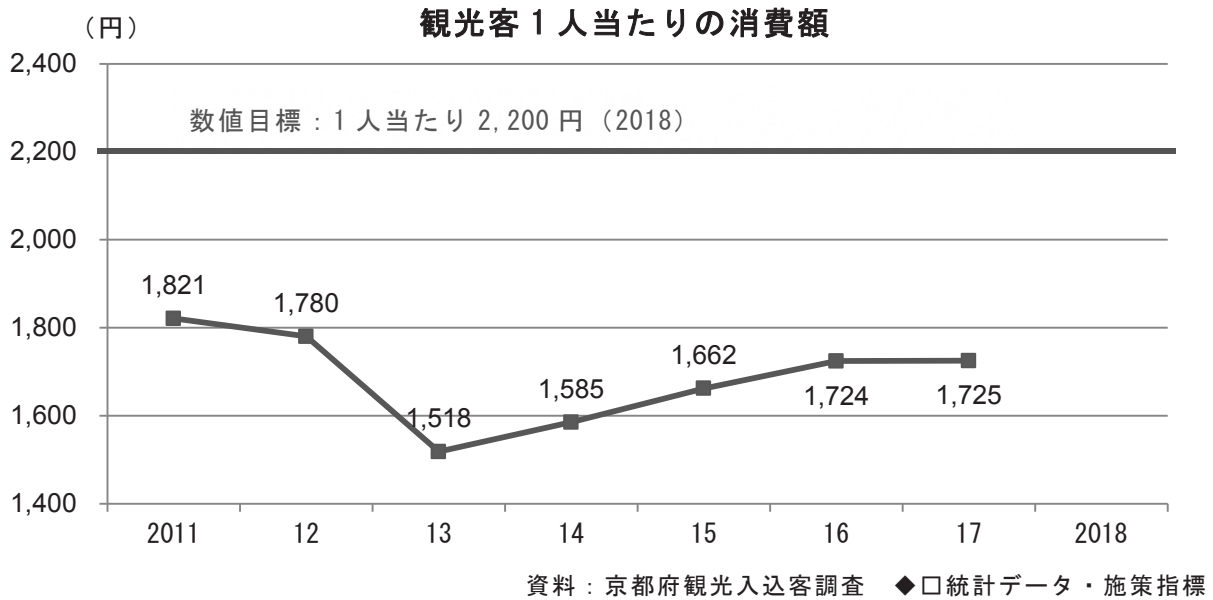
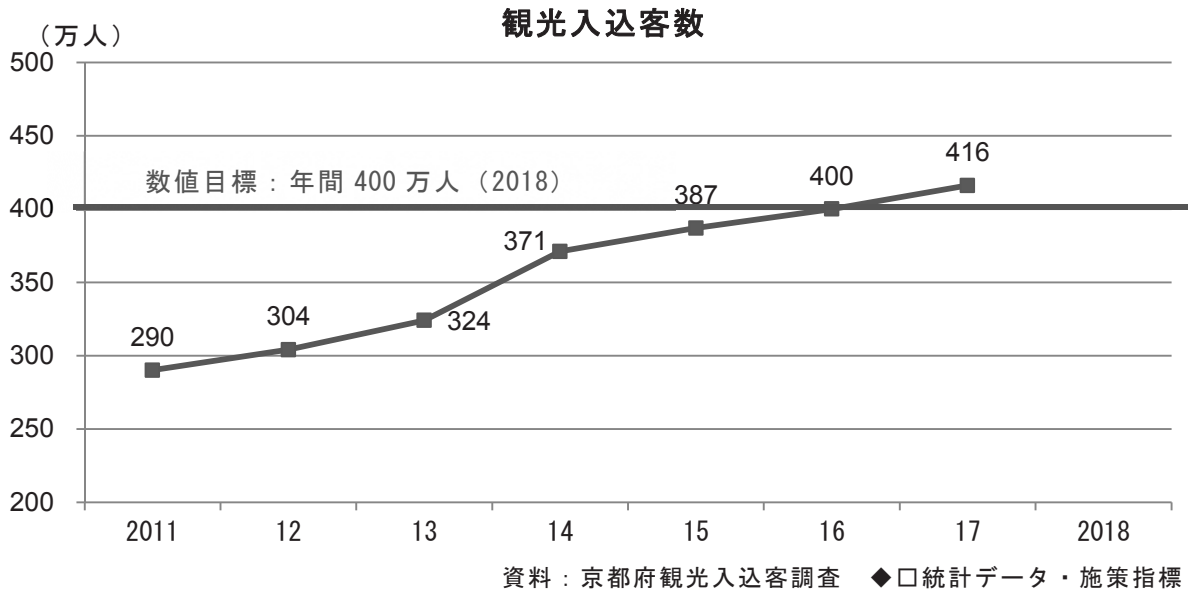
地域の魅力を高め、発信して交流人口と観光消費額の更なる増加を図るため、滞在交流型の観光地域づくりを進めるとともに、豊かな自然等を活かしたスポーツ・トレイルの推進やクルーズ客船寄港時における地域内周遊の促進等に京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会や海の京都DMOなどと連携して取り組む必要がある。

☆「森の京都」の推進による森林文化の発信や成長・循環型林業の推進

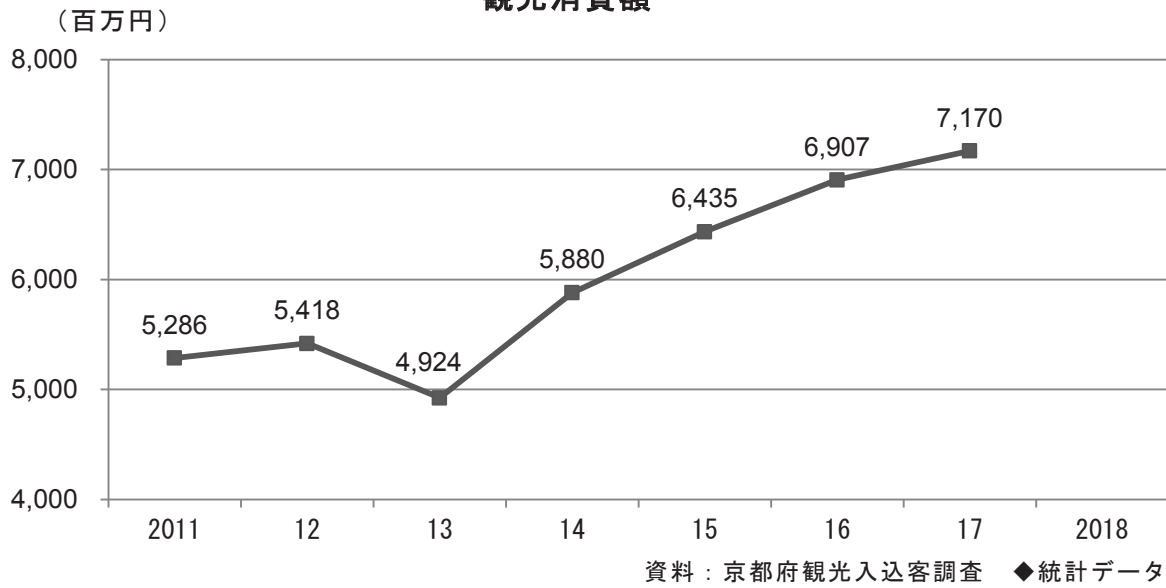
地域内外の人・モノの交流を促進するため、特色ある食材や古道等の豊かな資源を活かした地域づくりや京都中丹認証ジビエのブランド化、府内産木材の安定的・定量的な供給体制づくり等に森の京都DMOなどと連携して取り組む必要がある。

☆「海」と「森」をつなぐ広域的な誘客の促進

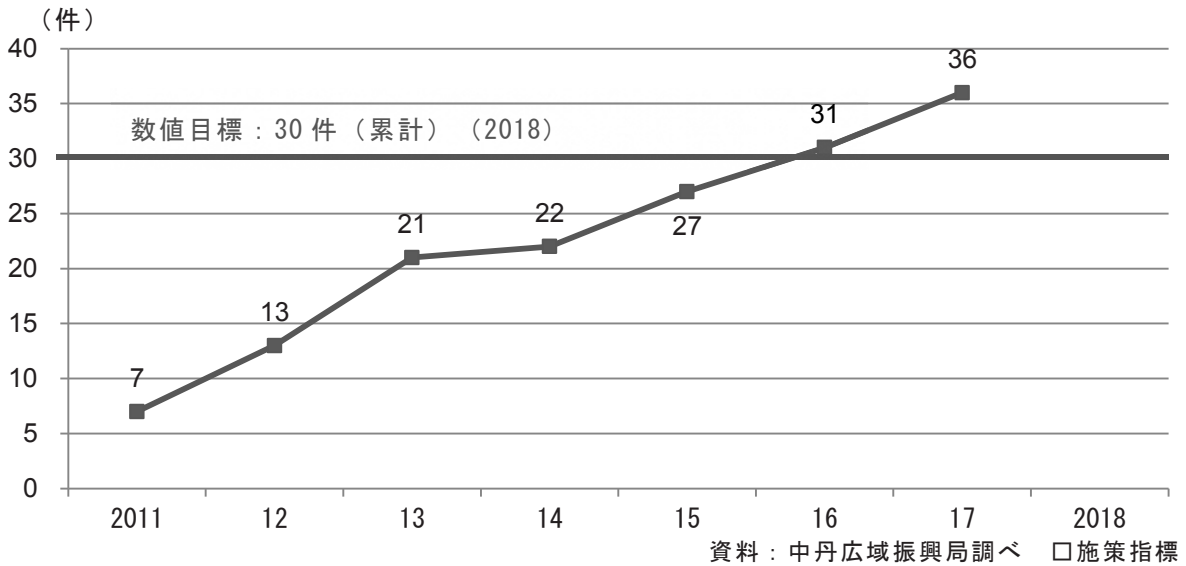
「海の京都」「森の京都」の結節点となっている中丹地域の特性を活かし、「海」と「森」双方の食・歴史・文化等の魅力を組み合わせることで京阪神のみならず、中京圏や海外からの誘客を促進する必要がある。



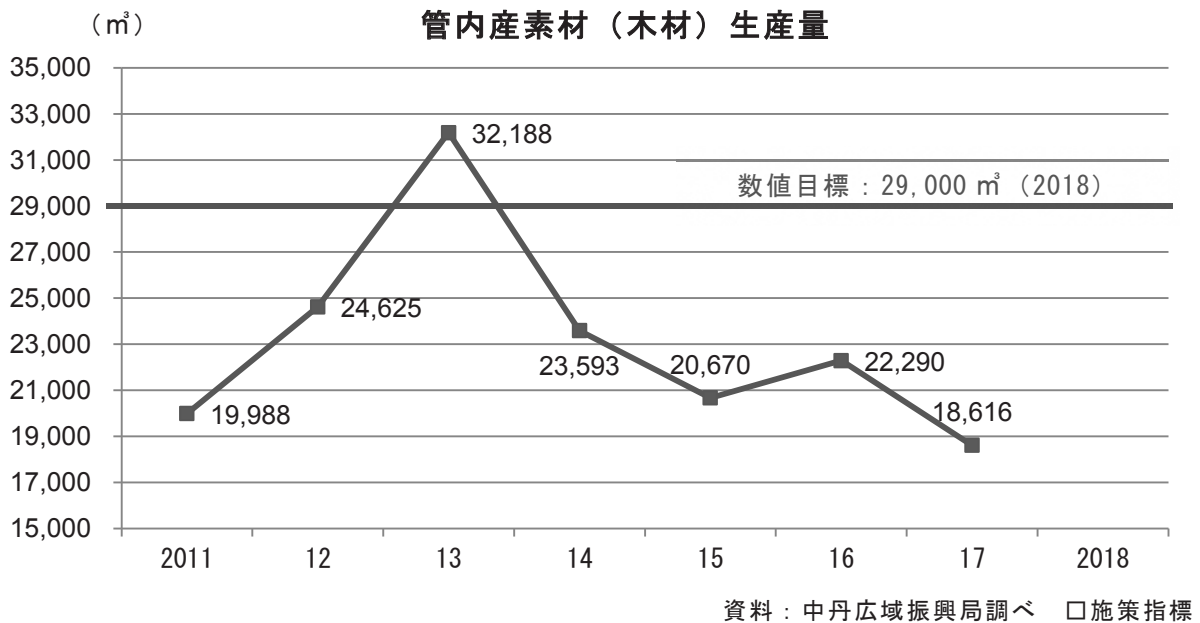
観光消費額



府の支援による農家民宿の開設数（累計）



管内産素材（木材）生産量



今後の課題 3

国土強靱化の推進による安心・安全な地域づくり

- 中丹地域では、2004年以降、三市間を連絡する道路が通行止めになるなど府民生活や地域経済に甚大な影響を及ぼす災害が5回発生しており、大雨に備えた治水対策などを推進している。
- 地域間連携・地域振興等の基盤となる道路の整備を推進するとともに、通学路等の歩道整備など交通安全対策に取り組んでいる。
- 道路等の公共施設の多くは、今後、老朽化等による大規模修繕や更新の必要性が見込まれることから、計画的な維持管理に取り組んでいる。
- 隣接県に原子力発電所が立地し、原子力災害対策重点区域(PAZ及びUPZ)を有することから、緊急時の対応強化に向けた取組を進めている。

【課題】

☆国土強靱化を実現する社会基盤整備

<国土保全>

国の由良川緊急治水対策事業と連携した河川・道路整備、弘法川・法川・高野川などの流域における内水被害等の解消に向けた河川改修、ため池貯留などの治水対策、土砂災害の被害軽減に向けた土石流や崖崩れなどを防ぐための施設整備、保水力を維持するための森林・里山・農地の保全を図る必要がある。

<交通・物流・都市機能強化>

府県間交流・地域間交流、地域経済・観光振興、大規模災害発生時の避難経路の確保に向けた道路ネットワークの強化や高齢者、子どもなど歩行者の安全を確保するための交通安全対策を推進する必要がある。

<災害対応力の強化>

地域防災訓練の実施、地域防災リーダーの養成、消防団等と連携した地域の情報ネットワーク構築、ハザードマップの更なる周知とその活用など、地域住民の適切な避難行動を促すきめ細かな情報伝達方法の工夫や警戒体制づくり、建設業等地域の安心・安全を支える人材の育成など、災害対応力を強化する必要がある。また、近年頻発する大規模地震に備え、住宅の耐震化などを推進する必要がある。

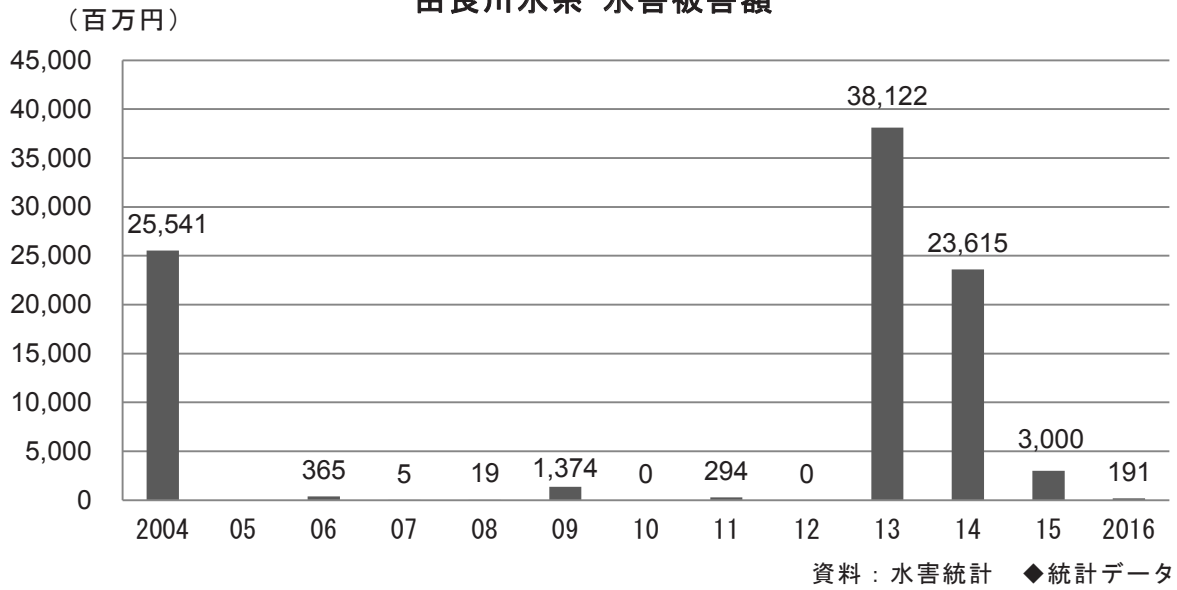
<施設老朽化への備え>

老朽化が原因となる公共施設の事故を防止し災害時にも機能を十分に発揮させるため、計画的かつ戦略的に維持管理を強化する必要がある。

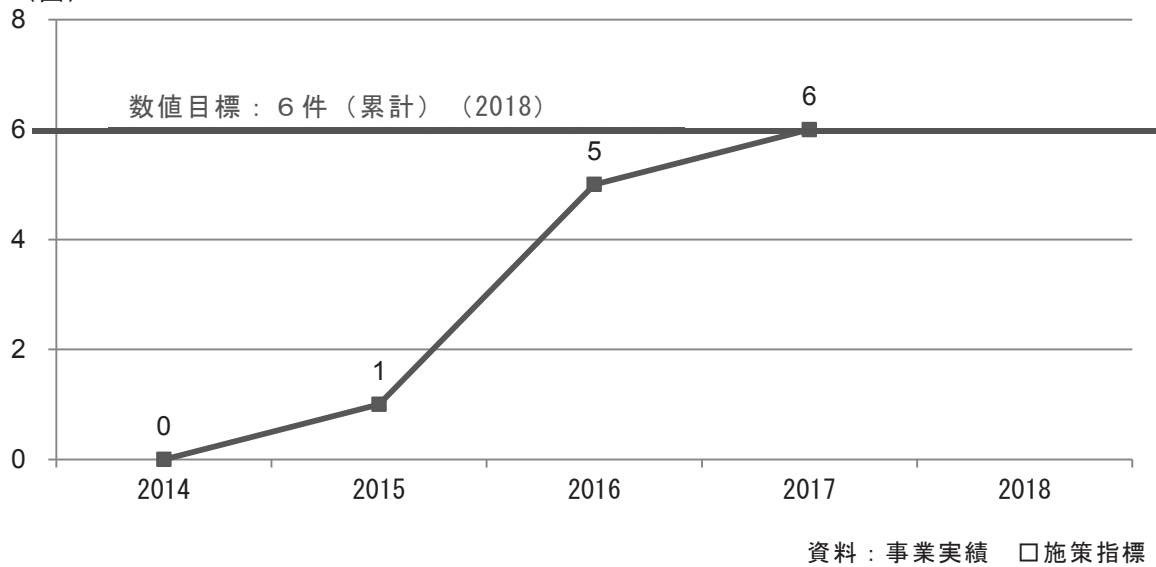
☆原子力災害への備え

避難路の整備や緊急対応マニュアルの充実整備、広域避難訓練の実施など、原子力災害への備えを強化する必要がある。

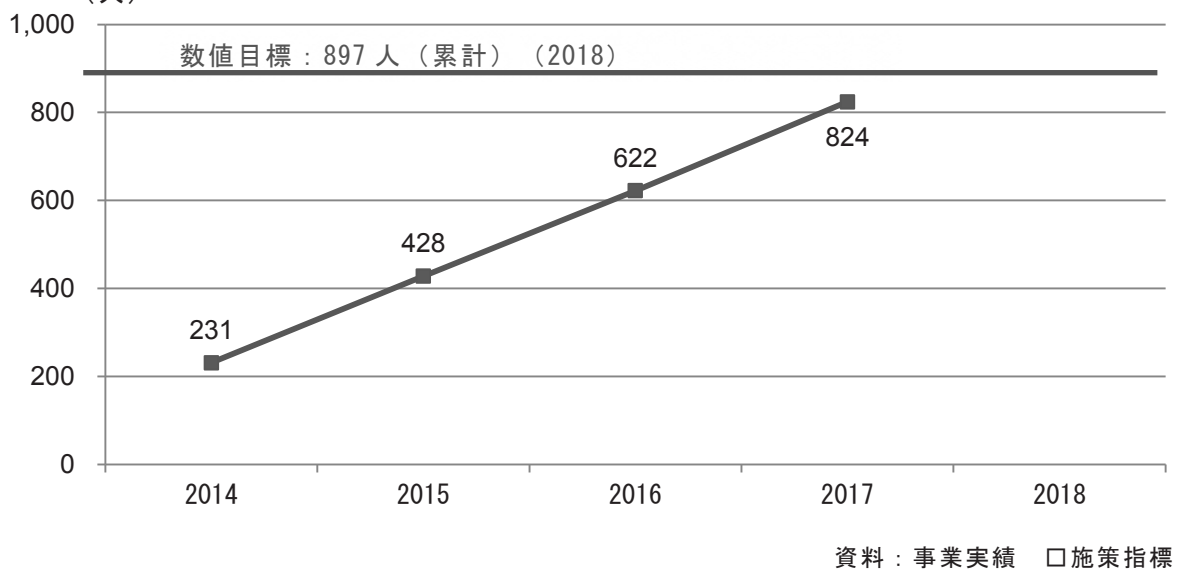
由良川水系 水害被害額



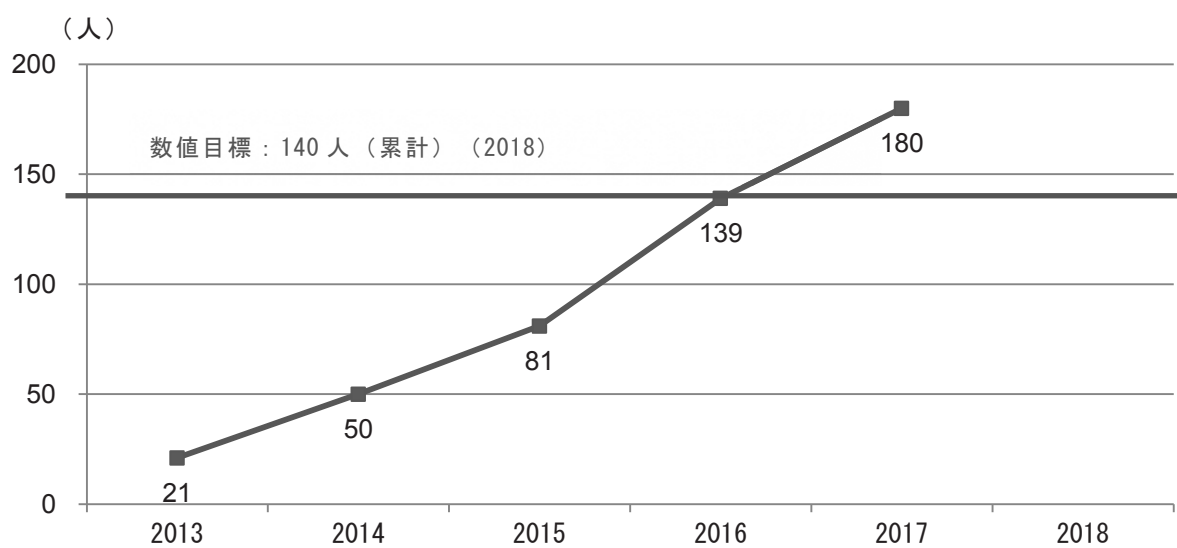
(回) 由良川治水対策事業と連携する府関連事業の完了件数 (累計)



(人) 自主防災組織におけるリーダーの育成数 (累計)



サーベイメータを取り扱える職員の育成数（累計）



資料：事業実績 □ 施策指標

(2) 地域振興計画関連指標（数値目標） 2017年(度)進捗状況

〔進捗率の算出方法〕

- ①数値目標が「増加」の方向をめざしている場合

$$\text{進捗率}(\%) = (\text{当該年(度)実績値} - \text{基準値}) / (\text{数値目標} - \text{基準値}) * 100$$
- ②数値目標が「減少」の方向をめざしている場合

$$\text{進捗率}(\%) = (\text{基準値} - \text{当該年(度)実績値}) / (\text{基準値} - \text{数値目標}) * 100$$

| | 単位 | 基準値（基準年） | 数値目標（目標年） | 2016年(度) ベンチマーク レポート 実績値(A) | 2017年(度) ベンチマーク レポート 実績値(B) |
|-----------------|----|---------------------------|------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 中丹地域振興計画 | | | | | |
| 66 | 事業 | 0（2013年度） | 6（2015～2018年度） | 5 | 6 |
| 67 | 人 | 231（2014年度） | 897（2018年度） | 622 | 824 |
| 68 | 人 | 21（2013年度） | 140（2018年度） | 139 | 180 |
| 69 | 人 | 1,762（2013年） | +97（2018年） | -74 | -197 |
| 70 | 人 | 186（2013年度） | 580（2015～2018年度） | 467 | 678 |
| 71 | m3 | 21,000（2010～2012 年度平均） | 29,000（2018年度） | 22,290 | 18,616 |
| 72 | 万円 | 92,400（2010～2012 年度平均） | 97,000（2018年度） | 97,800 | 93,400 |
| 73 | 社 | 1,961（2013年度） | 2,000以上（2018年度） | 1,974 | 1,953 |

- 注1) 進捗率が計算不能となるもの(例: 数値目標=増加)等については「-」と記載した
 注2) 「参考年間目標達成状況」欄は、参考年間目標を上回った指標を「○」と記載した
 注3) 調査未実施・結果未公表等の理由で2016、2017年(度)実績値が記載できないものについては、備考欄に記載値の当該年(度)を記載した

| 進捗率 (%) | 参考 年間目標 達成状況 | 数値変動の要因及び今後の取組内容 | 備 考 |
|------------|--------------------|---|----------------------------|
| 100.0 | ○ | 地元調整、事業用地の確保により、目標を達成した。 引き続き、国の由良川改修事業と連携し、支川の改修や沿川道路の嵩上げ、由良川に架かる橋梁の改築を進めていく。 | |
| 89.0 | ○ | 計画的に地域防災リーダーの育成ができています。 引き続き災害時に地域住民の先導等の役割を担う地防災リーダーを養成する。 | |
| 133.6 | ○ | サーベイメータ操作技術など基礎知識を持った職員の養成を順調に進めている。 引き続き、住民避難の際に迅速・的確に対応できる職員の育成に取り組む。 | |
| -203.1 | | 15歳～49歳の女性人口の減少もあり、出生数は減少した。 引き続き、子どもを産み育てる環境づくりや子育て世代を包括的に支援する体制づくりを進める。 | (A)2015年度実績 (B)2016年度実績 |
| 116.9 | ○ | きょうと介護・福祉ジョブネットや京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議との連携による取組の成果があらわれている。 引き続き、不足する介護人材の確保に向け当該事業を進める。 | |
| -29.8 | | 原木価格の低迷に起因し、木材生産活動意欲が低下している。 今後は施業の効率化や低コスト化等の取組を継続するとともに、20年度稼働予定の木質バイオマス発電事業への供給に向けた生産力向上の技術支援を実施する。 | |
| 21.7 | | 2017年冬の雪害等の気象災害に伴う生育不良により、生産額は前年度から微減となった。 今後は中丹地域農業応援隊による生産者への伴走支援を一層強化し、生産拡大、販路拡大を推進する。 | |
| -20.5 | | 人材不足、後継者不在等が影響し中小企業者数は前年度から微減となった。 今後も中小企業応援隊等との連携により事業継承や人材確保、創業・第二創業等の取組を支援していく。 | |

| | | 単位 | 基準値（基準年） | 数値目標（目標年） | 2016年（度） ベンチマーク レポート 実績値（A） | 2017年（度） ベンチマーク レポート 実績値（B） |
|----|--------------------------------------|-----|--------------|------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 74 | 京都舞鶴港におけるコ ンテナ取扱量 | TEU | 6,906（2013年） | 15,000（2018年） | 11,493 | 13,402 |
| 75 | 企業誘致等による雇用 創出人数（累計） | 人 | 54（2013年度） | 460（2015～2018年度） | 320 | 416 |
| 76 | 観光入込客数 | 万人 | 324（2013年） | 400（2018年） | 400 | 416 |
| 77 | 観光客の一人当たり消 費額 | 円 | 1,518（2013年） | 2,200（2018年） | 1,724 | 1,725 |
| 78 | 道路事業実施箇所件数 （年間） | 件 | 20（2013年度） | 20以上（2018年度） | 20 | 20 |
| 79 | 府の支援による農家民 宿の開設数（累計） | 軒 | 21（2013年度） | 30（2018年度） | 31 | 36 |
| 80 | 地域力再生交付金等を 活用したプラット フォームの数（累計） | 件 | 10（2013年度） | 20（2018年度） | 16 | 18 |
| 81 | 自分の夢や目標を持っ ている子どもの割合 （小学校6年生） | % | 85.4（2013年度） | 増加（2018年度） | 83.8 | 82.3 |
| 82 | 自分の夢や目標を持っ ている子どもの割合 （中学校3年生） | % | 69.6（2013年度） | 増加（2018年度） | 66.1 | 66.9 |
| 83 | 地域が主体的に取り組 む文化活動への支援件 数（年間） | 件 | 10（2013年度） | 10以上（2018年度） | 19 | 21 |

| 進捗率 (%) | 参考 年間目標 達成状況 | 数値変動の要因及び今後の取組内容 | 備 考 |
|------------|--------------------|---|-----|
| 80.3 | | 年間1,000社以上の訪問や韓国釜山市におけるセミナーでのトップセールス等、積極的なポートセールス活動の結果、新規貨物の獲得につながった。 今後も引き続き、一般社団法人京都舞鶴港振興会を中心に、ポートセールス活動を行い、コンテナ取扱量の増加を目指す。 | |
| 90.4 | ○ | 人材確保難の中でも雇用促進の支援制度を効果的に活用した大手企業の増員により新規雇用者数は微増となった。 今後も企業の人材確保力の向上や若者の地元就職と地元定着のための取組を推進する。 | |
| 121.1 | ○ | 外国人観光客の増加やクルーズ船の寄港、海の京都・森の京都によるプロモーション効果により増加した。 今後も増加傾向の維持に向け、海の京都・森の京都DMOとの連携による観光地域づくり及びプロモーションを継続する。 | |
| 30.4 | | 前年度から微増しているものの依然として低い数値となっている。日帰り中心で、かつ、地域での消費行動に繋がっていない。 今後も地域での滞在時間を増やすため、海の京都・森の京都DMOとの連携により滞在交流型の観光地域づくりを推進する。 | |
| 100.0 | ○ | 地元調整、事業用地の確保により、目標を達成した。 引き続き、計画的に整備事業を推進し、地域産業の活性化や府県間・中心市街地間の交流促進を支える基盤を整備する。 | |
| 166.7 | ○ | 農家民宿の宿泊・体験メニュー等の情報発信やワンストップ相談の充実により開設軒数が増加した。 引き続き、開業の説明会・相談の充実を図るとともに、インターネット等による情報発信を支援する。 | |
| 80.0 | ○ | 行政と民間が協働して事業に取り組むことで、地域の課題解決に向けた自主的な地域活動が促進できた。 今後も地域力再生交付金の活用を含め協働の取組を支援していく。 | |
| — | | 「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」がともに微減であり、より一層、キャリア教育の観点を踏まえた取組を推進していく必要がある。 引き続き、管内各市教育委員会等と連携し、質の高い学力の育成や豊かな人間性の育成等、京都府教育振興プラン「はぐくみたい力」の調和を大切にされた教育の推進を図る。 | |
| — | ○ | 「KYO発見 仕事・文化体験活動」事業等、キャリア教育の観点を踏まえた取組の推進等により、「当てはまる」と回答をした生徒の割合が増加したが、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が減少し、肯定的回答全体の割合は微増となった。 引き続き、管内各市教育委員会等と連携し、質の高い学力の育成や豊かな人間性の育成等、京都府教育振興プラン「はぐくみたい力」の調和を大切にされた教育の推進を図る。 | |
| — | ○ | 音楽や舞台芸術など地域における文化活動が、地域の文化団体等により積極的に進められている。 今後も文化関連補助金や地域力再生交付金などによる支援を行う。 | |

(3) 前年度の課題に対する対応状況

ベンチマークレポート [2017年9月] の「今後の課題」について、2018年度当初予算、6月補正予算で計上した主な事業は次のとおり

中丹地域振興計画

| 今後の課題 | 主な事業等 |
|---|---|
| (1) 「海・森の京都」の推進による魅力あふれる地域づくり | |
| ☆「海の京都」の推進による広域的な観光地域づくりの推進と北部連携都市圏の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・「農家民宿等」魅力づくり事業 ・SEA TO SUMMIT推進事業 ・クルーズ客滞在交流促進事業 ・「海の京都」を食いつくせ！フェスタ事業 |
| ☆「森の京都」推進による森林文化の発信や成長・循環型林業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「京都縦貫トレイル」づくり事業 ・京都中丹認証ジビエ倍増戦略事業 ・中丹「緑の幼稚園」育成事業 ・中丹地域木材供給力集中強化事業 |
| ☆「海」と「森」をつなぐ広域的な誘客の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「文明開化特別列車」ミュージアム事業 ・女性の心を射抜く！中丹の魅力商品開発・発信事業 |
| (2) 移住・定住対策の推進による持続可能な地域づくり | |
| ☆多様な価値観やライフスタイルが実現できる地域づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・「育・職・住」ライフスタイル推進事業 ・「中丹いなか暮らし」魅力発信事業 |
| ☆少子化対策や若者の地元定着の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・中丹地域高齢者・子育てまると支援事業 ・中小企業 地元若者人材確保支援事業 |
| ☆京都舞鶴港の活用など産業振興を通じた雇用促進、福知山公立大学などの教育機関や地域と連携した未来を担う人づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・未来を拓く茶どころ中丹発展支援事業 ・万願寺甘とう生産者拡大支援事業 ・大丹波連携推進事業 |
| (3) 安心・安全のためのソフト・ハード施策の充実 | |
| ☆水害・土砂災害や大規模地震への備え | <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い中丹地域づくり事業 |
| ☆原子力災害への備え | <ul style="list-style-type: none"> ・原子力防災対策事業 |
| ☆施設老朽化への備え | <ul style="list-style-type: none"> ・社会基盤長寿命化対策 |